

## 新たに導入した植物の 育成及び開花状況

### インドネシア及びタイから導入した植物

磯 部 実

社団法人日本植物園協会が主催する海外植物調査隊の一員として、1984年（第15次）にインドネシア、シンガポール、タイを、さらに1985年（第16次）にタイを訪れ、それまで本園になかった植物を新たに導入することができた。

その後、これらの植物を育成したところ、数種の植物について開花を見ることができたので報告する。

#### *Melastoma malabathricum* L. (ノボタン科)



図1 *Melastoma malabathricum*

インドネシア、チボタス植物園から種子で導入した。1984年9月に播種し、発芽後はガラス温室（最低温度15℃）で鉢植えにして育成し、1986年春に大温室に定植した。1986年8月には草丈が約70cmに生長し、初開花した。

原産地はインド、東南アジア、オーストラリア。高さ約2mになる低木で、枝は4稜で剛毛がある。葉は楕円形で先は尖り、長さ10~20cm。両面に毛がある。花は枝の先に散房状に数花をつけ、紫色で直径は約5cm（図1）。

#### *Montanoa hibiscifolia* (Benth.) C. Koch. (キク科)

インドネシア、チボタス植物園から種子で導入した。1984年9月に播種し、発芽後は前種と同様に管理し、1986年春に大温室に定植した。



図2 *Montanoa hibiscifolia*

1986年12月に草丈約2mに生長し、初開花した。

原産地は中央アメリカ。自生地では高さ6m近くまで生長するようである。葉は円形~腎臓形で直径約30cm。下面に軟毛があり、葉は掌状裂し、葉柄は葉耳をもつ。頭花は、白色の舌状花と緑黄色の筒状花よりなり、散房状につく。舌状花は長さ約1cm（図2）。

#### *Eurycles sylvestris* Salisb. (ヒガンバナ科)



図3 *Eurycles sylvestris*

タイ・バンコク市内の園芸店より入手した。また、タイでは、民家の庭先で鉢に植えて栽培しているのを見ることができた。導入当初は、種名は判別できなかったが、導入後ガラス室（最低温度15℃）で鉢植えにて管理し、1987年7月に開花したので、本種と判別した。

原産地は東南アジア。地下部は径4~5cmの鱗茎。根出葉は、長い葉柄があり腎臓形で直径約30cm。花は長さ30~45cmの花茎の頂上に散形に5~10個つける。花冠は白色で、6深裂する（図3）。

*Globba shomburgkii* HOOK. (シヨウガ科)



図4 *Globba shomburgkii*

タイ・カンチャナブリ地方のフタバガキ林にて採集した。導入当初は種名を判別できなかったが、ガラス室(最低温度15℃)で鉢植えにて管理し、1987年8月に開花したので、本種と判別した。

原産地はタイ～ベトナム。地下茎は横に這い、茎は直立して、草丈は50～80cm。葉は長さ10～20cmの披針形。茎頂より長さ約10cmの総状花房を下垂する。花は5～10花つき、苞葉は、発達し長さ約2cm。花被片は、長さ2cmで黄色。裂開した唇弁の基部に赤い斑点がある。葯隔は長く伸びて先が曲がる。苞葉の基部に珠芽ができて繁殖する(図4)。

*Coelogyne flavida* Wall. (ラン科)



図5 *Coelogyne flavida*

タイ・チェンマイ・カセサート農科大学演習林(ドイ・プイ山、標高1,660m)にて採取した。導入後ガラス室(最低温度15℃)にて鉢で栽培し、1987年7月に開花し、本種と判別した。

タイからシッキム、ラオスに自生する着生ラ

ン。偽球茎は、紡垂形で高さ約3～8cm。葉は、披針形で長さ15～20cm、幅約2.5cm。展開した葉の中心より、20～40cmの花茎を伸ばし、まばらに花をつける。花の自然開張幅は、約2cm。花卉、萼片は長さ約1cm。唇弁の長さ及び幅は約1cmで、唇弁の周縁にそって、淡黄色の斑紋が入る(図5)。

*Sarcanthus lanatus* (Ldl.) Holtt.



図6 *Sarcanthus lanatus*

タイ・カンチャナブリ地方のフタバガキ林にて採取した。導入後前種と同様に栽培し、1987年7月に開花した。

タイ、マレーシアに自生する単茎性の着生ラン。葉は線形で肉厚、長さ約10cm、幅約2cm、先は2分する。葉腋より長さ約15cmの花茎を下垂し、赤褐色の小さい花を多数つける。苞葉が発達し、長さ約5mmで蕾を包む。花の自然開張幅は約5mm。花被片外側には短毛がある(図6)。

*Schoenorchis gemmata* (Ldl.) J.J.Sm. (ラン科)



図7 *Schoenorchis gemmata*

タイ・チェンマイ・カセサート農科大学演習林にて採集した。導入後前種と同様に栽培し、1987年8月に開花した。

タイ・ヒマラヤ・インドシナにかけて自生する単茎性の着生ラン。茎は細く下垂し、葉は線形で厚く、長さ約10cm、幅約1.5cm。葉腋より3~4分枝する長さ約30cmの花茎を下垂し、小さい花を多数つける。花の自然開張幅は約3mm、萼片は淡青色、花弁、唇弁は白色で肉厚。開花期間は長く、当園の温室では開花時期は不定期(図7)。

1985年のタイ調査で確認または本園に導入したラン科植物のうち種名の判別できたものは、日本植物園協会タイ国植物調査報告書(1985年)に報告した。本報告では、その後新しく開花し、種名の判別したものを記した。

〈参考文献〉

井上頼数他著;最新園芸大辞典

L.H. Bailey; Hortus Third.

G. Seidenfaden & T. Smitinand; The Orchid of Thailand.

## バラ (5)

在岡孝行

本年も種子交換等により導入したバラの中から生育良好な下記の13種をバラ園原種コーナー

に植栽したので報告する。昨年までに植栽済みの51種を含め64種となった。

### 1987年に新たに植栽展示したバラ

学名	播種日	導入先	形態その他
<i>R. acicularis</i> var. <i>bourgeauiana</i> Crép.	年 月 日 85. 5 .29	ラトビア大学 (ソビエト)	種子
<i>R. alba</i> L.	87.12. 7	タキイ種苗 (日本)	接木苗
<i>R. amblyotis</i> Mey.	86. 6 .28	アムステルダム大学 (オランダ)	種子
<i>R. damascena</i> Mill.	86. 6 .16	パーカル樹木園 (ルーマニア)	種子
<i>R. davidii</i> Crép.	85. 4 .14	アムステルダム大学 (オランダ)	種子
<i>R. gigantea</i> Collett	86. 2 .12	昆明植物園 (中国)	種子
<i>R. holodonta</i> Stapf	86. 5 .11	キュー植物園 (イギリス)	種子
<i>R. latibracteata</i> Bouleng.	84. 5 .29	ワゲニンゲン樹木園 (オランダ)	種子
<i>R. montana</i> Chaix	84.11. 8	ジェノバ大学 (イタリア)	種子
<i>R. × reversa</i> Waldst. & Kit.	85. 5 .29	ラトビア大学 (ソビエト)	種子
<i>R. rubrifolia</i> Vill.	85. 6 .28	デボネアン大学 (カナダ)	種子
<i>R. spinosissima</i> var. <i>myriacantha</i> Koehne	85. 6 .28	デボネアン大学 (カナダ)	種子 = <i>myriacantha</i> *
<i>R. woodsii</i> var. <i>fendleri</i> Rehd.	85. 5 .29	ラトビア大学 (ソビエト)	種子 = <i>fendleri</i> *

\* 導入名

〈参考文献〉

Haring, P. A. (ed.) 1986; Modern Roses 9.